



紹介者

**寺田 航平**

寺田倉庫  
取締役社長CEO



**大久保 和孝**

大久保アソシエイツ  
取締役社長

## 「感謝」と「学び」を心に刻み

監査法人を退職後、社外役員に就任の傍ら研究機関が有する技術の社会実装に取り組んでいる。一つに、理化学研究所が開発したSmartAmp法を利用した新型コロナウイルスの迅速検出法がある。日本の独自開発で安価かつ短時間で結果を出せ、国立感染症研究所と同程度の精度を誇る。開発者の林崎良英先生との縁もあり、2020年12月にPCR検査を最安値で提供する株式会社SS Dnafromを起業した。

『Nature』の掲載論文でも明らかな通り、感染拡大を防止しつつ経済を回すには検査体制の充実が不可欠だ。リスクはゼロにならないが、大幅に減らすことはできる。日本では公的な検査体制が不十分な上、民間検査は価格と精度に不安が残る。昨年夏、政府関係者に同法を紹介したが、技術は理解されるも運営できないと一蹴され、企業独自の検査体制整備も検討したが法律などの壁に直面した。やむなく、同年11月から許認可の取得、専門職の採用など急ピッチで設立準備を行い12月に自ら設立した。経済同友会でのご縁をはじめ、多くの方からのご支援で実現できたことは感謝の念に堪えない。現在、読売巨人軍、ピーチ・アビエーション、大企業のスクリーニング検査、そして経済同友会でもご利用いただき、設立以来50万件を超える検査を行ってきた。

効果的な検査のためには、Covid19の特性を踏まえたオペレーションが重要だ。効率的で効果的な方法は何か、検査キットの受け渡し、検体採取、検査所への送付、検査、結果通知までのフローとコストを総合的に考える必要がある。

起業は経営者の皆さまから学んだことの実践だ。当然のことの実践がいかに難しいか。ベンチャー企業特有の経営課題、研究機関や研究者との付き合い方、BtoCビジネスの難しさ、クラウドなどの先進的な技術の活用など、日々挑戦と学びの連続だ。

人手を介することの多い検査だがミスは許されない。忙しい現場へのコンプライアンスの浸透には、経営理念徹底と常にステークホルダー（相手）を意識することが鍵だ。支えてくださる皆さま、現場の社員には感謝しかない。また、チャレンジし失敗しても学び続ける意思。二つの言葉「感謝」と「学び」をかみ締めながら、コロナ感染拡大防止を図り経済を回すことに寄与していきたい。

▶▶ 次回リレートーク

**里見 治紀**

セガサミーホールディングス  
取締役社長グループCEO